

教育関係者 各位

日本ピア・サポート学会北海道支部 主催
北海道教育委員会、日本ピア・サポート学会 後援

第9回ピア・サポート実践交流会 & 第9回（生徒指導・カウンセリング）スキルアップ研修会

2016年7月30日（土）～31日（日）

ピア・サポートの有効性と必要性が教育現場を中心に叫ばれています。北海道支部では幅広く実践交流を推進し、これから実践しようとする方にも、すでに実践している方にも、始めたばかりの方にも役立つ内容を提供したいと考えています。加えて2日目のスキルアップ研修会では幼・保育園・小学校の教職員等に重点を置いた生徒指導内容と、中学・高校で事例を多く抱えている不登校・引きこもりについて、それぞれの専門家を招きより研修を深められる企画を致しました。どうぞ、二日間通して、あるいは1日だけでも、お気軽にご参加くださいますようお願い申し上げます。 <支部長；長野喜美子>

1 日 程 1 ; 2016年7月30日（土）

第9回ピア・サポート実践交流会

- 9:15～9:25 開講式
9:25～10:10 (45) 実践発表Ⅰ 西永 円 (旭川市立愛宕東小学校教諭)
10:15～11:00 (45) 実践発表Ⅱ 梅田 悦子 (岩見沢市立第二小学校教諭)
11:05～11:50 (45) 実践発表Ⅲ 浦野 圭太 (北海道札幌啓北商業高等学校教諭)
12:50～14:50 (120) 実践発表Ⅳ 三枝由佳里 (大阪市教育委員会総括指導主事)
14:55～15:55 (60) 参加者実践交流会Ⅰ
～16:00 閉講式

2 日 程 2 ; 2016年7月31日（日）

第9回（生徒指導・カウンセリング）スキルアップ研修会

- 9:15～9:25 開講式
9:25～10:20 (55) スキルアップ研修Ⅰ「生徒指導に活かす動的家族画」
齋藤 敏子 (日本カウンセリング学会認定カウンセラー)
10:30～12:00 (90) スキルアップ研修Ⅱ「不登校や引きこもり生徒へのアプローチの仕方」
齋藤暢一朗 (北海道大学保健センター講師、臨床心理士)
13:00～14:30 (90) スキルアップ研修Ⅲ「トリプルPの考え方を生かした児童生徒指導」
澤田いずみ (札幌医科大学准教授)
14:40～15:40 (60) 全体シェア、参加者交流会
15:40～15:50 (10) アンケート記入、閉講式

3 場 所 ; 札幌市教育文化会館 301研修室 (札幌市中央区北1条西13丁目
地下鉄東西線「大通り西11丁目」下車、1番出口から徒歩7分。)

4 参加費 ; 2日間6,000円 (支部会員は5,000円) 1日のみ3,000円。申込受付後に振込先等をお知らせいたします。

5 申込先 ; 支部事務局Eメール ; peerkitasibu@ncv.jp ※ si には h 不要。

申込者の (1) 氏名、ふりがな (2) 性別、 (3) 年齢、 (4) 勤務先名 (職名)、
※ここまでの情報は演習の際、グループ分けの参考にします。 (5) 支部会員は会員番号、
(6) 参加日程 (A ; 両日、B ; 7/30 のみ、C ; 7/31 のみ、のいずれか) をお知らせください。

お問い合わせは、電話 ; 090-3778-8850 (事務局長 ; 齋藤)

6 締めきり ; 7月23日まで。 (ただし、定員になり次第締め切ります。)

7 その他 ; 参加者には「研修証明書」を発行します。ピア・トレーナー申請の単位になります。
<裏面もご覧ください>

発表者及び講師のプロフィールと発表要旨

ピア・サポート実践発表者

【西永 円】

北海道支部幹事。一日の大半を過ごす学級だからこそ、心と心の触れ合いを大切にした学級づくりを目指してきた。そのためにピアサポートを学級活動や学習活動に活用し、子ども達が持つ「強み(リソース)」を活かした課題の解決に取り組んだ。本研修では、S G Eを活かした演習や、様々なピア・サポートにつながる活動を紹介しながら、子ども達の自己意識の変容や自己肯定感を高めていく成長の様子をお伝えしたい。

【梅田 悦子】

北海道支部会員。2年前に、ピア・サポートと出会い共感し、研修を深めた。それ以来、ピア・サポートを学級経営の中に取り入れ、「温かい人間関係や、思いやりあふれる学級」にするために子ども達と一緒に考え、実践してきた。今回の発表では、ピア・サポートの取り組みを通して居心地のよい学級づくりにむけた2年間の実践を紹介する中で、小学校におけるピア・サポートの可能性を共有したい。

【浦野 圭太】

日本ピア・サポート学会会員。昨年度より“仲間によるサポートを学ぶ”をテーマに「啓北ピアサポート講座」を開催してきた。この活動は、一般的に学校で広く実践されているピア・サポートトレーニングの中に、進路や社会についての知見を広げることを目的とした医療・福祉の専門家による講座を組み合わせる本校独自のプログラムである。本研修では、2年間の実践の成果と課題をまとめ、お伝えしたい。

【三枝由佳里】

大阪市教育委員会総括指導主事、元小学校教頭、ピアサポートコーディネーター、学校カウンセラー。小学校学級担任・生活指導担当としての経験から日本の教育へのピアサポートの必要性を早くから感じていた。今回は教頭・指導主事として関わってきた数々の実践を通して感じている、実践のためのポイントを時間を拡大し講義形式も取り入れながら紹介したい。

スキルアップ研修講師

【齋藤 敏子】

スクールカウンセラー。函館大谷短期大学非常勤講師。「動的家族画」は家族の特徴、シンボル、スタイル、行為等が分析され家族の心理的力動など多くの情報が得られることや、描画可能な幼児から取り組めるので心理臨床ではよく使われる。本研修では学校において教師が無難に生徒指導に活用する留意点を演習形式でお伝えしたい。

【齋藤暢一郎】

北海道大学保健センター講師、臨床心理士、心理学博士。不登校・引きこもり支援を専門に活動し、特に長期化事例に対して家族介入と訪問支援によるアプローチ方法を研究してきた。本研修会では事例を通し、私がこれまで試みた効果的な支援のポイントや留意点をお伝えするとともに、学校サイドに期待する支援についても触れたい。

【澤田いずみ】

札幌医科大学准教授。トリプルPジャパン理事。Triple PとはPositive Parenting Program（前向き子育てプログラム）のことであり、すべての親に役立つ方法であるが、特に扱いが難しい、言うことを聞かない、反抗的、攻撃的、逸脱的な子どもの対処に苦戦している親に有益である。学校の生徒指導においても必ずや参考になるものが含まれているものと思う。